



誰  
もが  
誰  
か  
の、  
た  
か  
ら  
の  
。

## 島根県立美術館 企画展 「島根から世界へー 生誕 150 年 石橋和訓展」

島根県立美術館では、「島根から世界へー 生誕 150 年 石橋和訓展」を下記のとおり開催いたします。現在の島根県出雲市佐田町出身の画家・石橋和訓(かずのり)(1876-1928)は、明治期に英国に渡り、ロイヤル・アカデミーで日本人最初の入学者という大きな足跡を残しました。その代表作《美人読詩》に見られるように、J.S.サージェントらに師事してヨーロッパの洗練された油彩技法を身につけた石橋の肖像画は現地で好評を博します。他方で、日本で滝和亭らのもとで身につけた日本画の技術は英国の日本美術愛好家にとっても高く評価されました。下村観山や南薫造ら他の渡英日本人画家たちとの交友も知られています。

帰国後は主に肖像画家として活躍し、犬養毅や渋沢栄一など政財界要人の肖像画を多数制作。帝展を中心に発表し審査員も務めるなど画壇での存在感を強めました。1928年に51歳で急逝したことにより、次第に忘れられてしまいましたが、近年日英両国間での調査の進展により、その足跡が明らかになりつつあります。

このたび画家の生誕 150 年という記念すべき年に、公立美術館では初となる大規模な回顧展を開催し、島根から世界へと大きく羽ばたいた誇るべき郷土出身の画家・石橋和訓を顕彰します。

### 記

#### 展覧会概要

展覧会名／「島根から世界へー 生誕 150 年 石橋和訓展」

会期／2026年3月6日(金)～6月8日(月)

開館時間／10：00～日没後30分

(展示室への入場は日没時刻まで)

休館日／火曜日(ただし5/5は開館)

会場／島根県立美術館

主催／島根県立美術館、日本海テレビ、

山陰中央新報社、SPSしまねグループ

後援／出雲市、出雲市教育委員会、

朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、

読売新聞松江支局、産経新聞社、

中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、

NHK松江放送局、TSKさんいん中央テレビ、

BSS山陰放送、エフエム山陰、

山陰ケーブルビジョン



石橋和訓《美人読詩》1906年 島根県立美術館蔵

観覧料（石橋展のみ）／

オンラインチケット・ローソンチケット

一般 1,000 円 大学生 700 円 小中高生 400 円

当日券

一般 1,300 (1,040) 円 大学生 1,000 (800) 円 小中高生 500 (400) 円

※石橋展の観覧と同日にコレクション展も観覧される場合は当日総合受付にてコレクション展チケットをお求めください。

※（ ）は20名以上の団体料金 20名以上の団体での来館については美術館ホームページをご確認ください。

※オンラインチケットはホームページより、ローソンチケットはローソン各店にて販売（Lコード：63398）

※未就学児無料 ※小中高生の学校教育活動での観覧は無料

※身体障害者手帳（障害者手帳アプリ：ミライロID）、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方、及びその付添人は1名まで無料

### みどころ（展示総数：150点）

- ① 島根県出身で、イギリスと日本で活躍した石橋和訓（1876-1928）、初の大規模な回顧展
- ② 英国の大英博物館をはじめ、国内外にある石橋作品が多数集結
- ③ 大隈重信、渋沢栄一など政財界の大物の肖像画のほか、画業をたどれる作品を展示
- ④ 滝和亭やサージェント、下村観山や南薫造ら、師・友人など関連作家の作品も多数展示



石橋和訓《日本の桜花とヤマドリ》1905年 個人蔵（英国）



石橋和訓（滞英時代）個人蔵  
（島根県立美術館寄託）

## 展覧会構成

### I. 立志 1876-1903 出生から渡英まで

1876（明治9）年6月6日、島根県飯石郡西須佐村（現在の出雲市佐田町<sup>たんべ</sup>反辺）で農家を営む父熊三郎、母マツの間に生まれた石橋倉三郎（のちの和訓）は、幼い頃から画才に秀でた少年でした。周囲の支えもあってその夢は大きく広がり、地元から松江、東京と出て、やがて英国留学を志します。

松江時代の師・後藤魚洲<sup>ぎょしゅう</sup>や堀櫟山<sup>れきざん</sup>、東京時代の師・本多錦吉郎<sup>かねきちろう</sup>や滝和亭<sup>かてい</sup>らの作品とともに、青年時代の石橋作品を紹介します。



石橋和訓《肖像》1892年  
島根県立美術館蔵

## II. 飛躍 1903-1917 第1次滞英期

石橋はロンドンに到着するや否や努力を重ね、様々な人々からの紹介や薦めを受けて、ロイヤル・アカデミー・スクール初の日本人入学者となりました。ロイヤル・アカデミー（RA）ではサージェントやソロモン・J・ソロモンらのもとで西洋伝統の油彩技法を習得。とりわけ師サージェントも得意とした肖像画の分野で力を発揮することになります。

また、今回初来日する日本美術愛好家アーサー・モリソン旧蔵の石橋作品（大英博物館所蔵）など日本画も多く残しました。

当時英国に留学した他の日本人画家たち——日本画家の下村観山や洋画家の南薫造、白瀧幾之助、建築家の大沢三之助らとの交友についても紹介します。



石橋和訓《彫刻家》1911年  
東京国立近代美術館蔵



ジョン・シンガー・サージェント  
《ハロルド・ウィルソン夫人》1897年  
東京富士美術館蔵  
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
※3月16日まで展示



南薫造《坐せる女》1908年  
広島県立美術館蔵



下村観山《ナイト・エラント》(J.E.ミレイ)  
の模写 1904年  
横浜美術館蔵（原範行氏・原會津子氏寄贈）  
※5月11日まで展示

## III. 凱旋 1918-1919 渡英～第1次帰朝

渡英後初めて帰国した石橋は、英国からの新帰朝者として『中央美術』や『みづゑ』といった雑誌へ寄稿する傍ら、英国人画家フランク・ブラングインの版画104点を中心とする『欧州大家絵画展覧会』を開催。これには第一次世界大戦下の亡命ベルギー人作家のためのチャリティー展としての側面もあり、石橋の人道的な性格や社会活動家としての側面が発揮される機会ともなりました。

同時に、中條精一郎ら友人たちが発起人となり「石橋和訓氏肖像画会」も結成。犬養毅<sup>いぬかいつよし</sup>や渋沢栄一など政財界の重要人物が賛助会員として名を連ね、石橋のネットワークが広がりを見せます。

「松方コレクション」で知られる松方幸次郎とブラングインによる「共楽美術館構想」の話し合いの場に黒田清輝やバーナード・リーチらとともに参加していたことも知られており、当時様々な美術家や上流階級とも交流のある英国通として期待されていた石橋の存在感の大きさが窺えます。



石橋和訓《松方正義肖像》1918年  
鹿児島市立美術館

#### IV. 頂点 1920-1923 再渡英～第2次滞英期

再び渡英した石橋は、英国内の展覧会に加え、日本の帝国美術院展覧会（帝展）でも発表するなど引き続き精力的に活動を行いました。くわえてこの2回目の滞英期は、パリのソシエテ・ナショナル・デ・ボザール（国民美術協会）のサロンへ亀井茲常伯爵一家の肖像画を出品するなど、国際的な活躍を見せます。同時に、ロンドンにおける重要な美術団体であるチェルシー・アーツ・クラブの会員となり、英画壇での存在感を示しました。この芸術家たちによる紳士クラブへの入会に当たっては、第一次帰朝時に行ったベルギー難民を救済するチャリティー展『欧州大家絵画展覧会』の企画・開催という社会的貢献が寄与したのではないかとされており、画業以外の業績も含めて英国における石橋評価はここにおいてピークに達したと言えます。

リバプールの実業家ボルト家（高名な指揮者であるエイドリアン・ボルトを輩出）との関係も紹介します。



石橋和訓《エイドリアン・ボルト肖像》1923年 英国王立音楽大学蔵  
(On loan from the Royal College of Music) Royal College of Music / Arena PAL

#### V. 栄光 1923-1928 第2次帰朝～急逝

1923（大正12）年9月2日、石橋は友人の水彩画家ハーバート・ヒューズ＝スタントンを伴い日本に帰国。折しも前日に起きた関東大震災のため東京に入れなかった二人は石橋の故郷・島根に向かいます。こうして彼らの手になる島根の風景画やゆかりの品々が残されることになりました。

やがて東京に戻った石橋は、渋谷の常盤松にアトリエを構え制作に勤めます。このアトリエには、渋沢栄一、徳川家達、若槻礼次郎ら政財界の重鎮たちがモデルとして訪れたことが知られています。この時期、帝展審査員を務めるなど画壇での存在感を強めました。

その頃、渋沢が献納する明治神宮外苑聖徳記念絵画館の壁画「グラント将軍と対話」の揮毫を命じられるという榮譽にも浴しています。制作の準備を進めていた石橋でしたが、1928（昭和3）年5月3日に51歳で急逝。未完に終わりました。

晩年、故郷の出雲市佐田町反辺に建立した「昭和記念塔」についても紹介します。



石橋和訓《渋沢栄一肖像》1925年  
学校法人日本女子大学蔵  
撮影：廣瀬久哉

#### 関連イベント

##### ●オープニングギャラリートーク 要企画展観覧料

講師／林みちこ氏（筑波大学准教授 / 本展学術協力者）、柳原一徳（当館専門学芸員 / 本展担当）

日時／3月6日（金）10：00～（約60分）

会場／企画展示室

##### ●開幕記念シンポジウム「石橋和訓とその時代」 聴講無料

日時／3月7日（土）13時30分～16時30分（途中休憩あり）

司会／宮下規久朗氏（神戸大学教授）

登壇者／ロジーナ・バックランド氏（大英博物館 日本コレクション 朝日新聞キュレーター）※リモートで参加予定

藤崎綾氏（広島県立美術館主任学芸員）

林みちこ氏（筑波大学准教授 / 本展学術協力者）

柳原一徳（当館専門学芸員 / 本展担当）

会場／美術館ホール（190席当日先着順／13：00開場）

●記念講演会 聴講無料

演題／「石橋和訓研究の現在地—課題と展望—」

日時／4月12日(日) 14:00～(約90分)

講師／林みちこ氏(筑波大学准教授 / 本展学術協力者)

会場／美術館ホール(190席当日先着順/13:30開場)

●スライドトーク(学芸員による石橋和訓展のみどころ紹介) 聴講無料

日時／3月28日(土)、4月26日(日)、5月23日(土) 各日14:00～(約60分)

会場／美術館ホール(190席当日先着順/13:30開場)

●〈ワークショップ〉「筆談鑑賞プログラム：肖像画を見る、書く、知る」手話通訳あり

作品について筆談で会話を楽しみながら、新しい作品の味わい方を見つけるためのプログラム。聞こえる人も聞こえない人も聞こえない人も参加していただけます。手話通訳つきです。

講師：小笠原新也氏(耳の聞こえない鑑賞案内人)

日時：5月24日(日)

会場：アートスタジオ、コレクション展示室

※最新の情報は、当館ホームページをご確認ください。

●美術館キネマ ワクワク！イギリス映画特集①② 鑑賞無料

①「劇場版 ダウントン・アビー」※日本語吹き替え

日時／3月21日(土) 10:30～ ②14:00～

会場／美術館ホール(190席当日先着順/各回30分前開場)

②「パディントン」※日本語吹き替え

日時／5月5日(火・祝) 10:30～ ②14:00～

会場／美術館ホール(190席当日先着順/各回30分前開場)

●ロビーコンサート 鑑賞無料

石橋和訓の留学したイギリスにちなんだ音楽をお届けします。

日にち／4月5日(日)、5月31日(日)

※詳細は決まり次第当館サイトのイベントページで公開いたします

<https://www.shimane-art-museum.jp/event/>

●ミュージアムショップ

公式展覧会図録(3,300円税込)をはじめ、展覧会オリジナルグッズを販売します。



(C) 2019 Universal Studios. All Rights Reserved. Downton(TM) and Downton Abbey(R) (C)2019 Carnival Film And Television Limited.



©2014 STUDIOCANAL S.A. TF1 FILMS PRODUCTION S.A.S. PADDINGTON BEAR™, PADDINGTON® AND PB™ ARE TRADEMARKS OF PADDINGTON AND COMPANY LIMITED. www.paddington.com

島根創生計画 [第2期]	VI心豊かな社会をつくる 2 スポーツ・文化芸術の振興 (2) 文化芸術の振興 (P 8 1)
-----------------	---

【県 HP】

(島根創生を進めるための新規・拡充施策(令和7年度版))

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/zaisei/yosan/yosanr7/r7gaiyou.data/shinkikakujuR7.pdf>



(島根創生計画 [第2期])

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/keikaku/shimanesousei/index.data/souseikeikaku2nd.pdf>



※別途、民間の配信サービスを利用し、情報発信する予定です。

以上